

DATA FILE



単斜晶系

名 前	JADEITE (ジェーダイト) / ひすい輝石
化学組成	$\text{NaAlSi}_2\text{O}_6$
色	白色、すみれ色、緑色など
光 沢	ガラス光沢
蛍 光	なし (稀にあり)
条 痕	白色
劈 開	完全
断 口	貝殻状
硬 度	6.5 ~ 7
比 重	3.2 ~ 3.4

ひすい輝石

JADEITE

結晶はふつう白色だが、微量な副成分によって緑色やすみれ色などでもあらわれる。

ガラスのような光沢を持つ。

新潟県糸魚川市で産出した良質なひすい輝石。緑色部分にはオンファス輝石が多く含まれる。(写真提供: フォッサマグナミュージアム)

劈開は完全で、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

藍閃石、オンファス輝石、曹長石、石英、ソーダ沸石、コランダムなどと共生する。

変成岩や蛇紋岩中から脈状または塊状で産出する。



本来は白色の鉱物

ひすい輝石は、純粋なものは白色だが、微量に含まれる副成分によってさまざまな色であられる。そのなかでも鉄やクロムを含む緑色の原石はインペリアル・ジェードとして知られ、古くから中国や日本では「玉」として、勾玉などに加工されてきた。また、鉄やチタンを微量に含むものはすみれ色になる。非常に微細な結晶が緻密な集合体になった塊で産出し、結晶はとても小さいため肉眼では見えにくい、稀に繊維状のすじや双晶が確認できるものもある。なお、半透明や不透明の結晶が多いひすい輝石のなかでも、良質なものは透明に近く、価値が高いとされる。

▼ひすい輝石の産地として有名な新潟県の糸魚川市で産出した塊状集合体。

ヒ
ひすい輝石



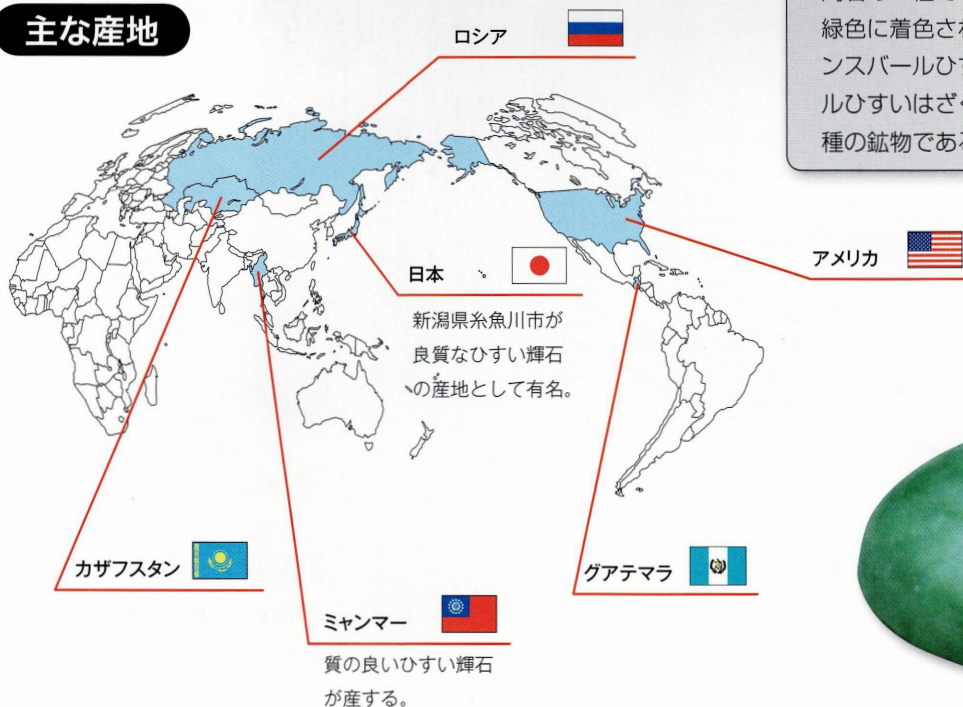
▼ひすい輝石の緻密な集合体。



偽物に注意

「玉」と呼ばれる宝石の一種であるひすい輝石は、質の良いものが見つかることは稀であるため、偽物も多く存在する。ひすい輝石として一般的に流通しているのは、ひすい輝石よりもやわらかく加工しやすい角閃石の一種である緑閃石で、より本物に似せるために緑色に着色されることがある。また、緑色透明のトランスパールひすいも間違われやすいが、トランスパールひすいはざくろ石の一種であり、ひすい輝石とは別種の鉱物である。

主な産地



▲カボション・カットが施されたひすい輝石。